

## 2006年度事業報告書

財団法人 武田科学振興財団

2006年度の各事業は、順調に推移した。

本年度は、着実に進捗している「04-10事業計画」を基に各事業をさらに拡充した。研究助成事業では、新たなプログラムとして研究機関を対象にした「特定研究助成〔Ⅰ〕2006」および研究者を対象にした「特定研究助成〔Ⅱ〕2006」を実施した。また、特定研究助成として2005年度に公募した「武田記念生薬学研究助成2006」を交付した。高等学校理科教育振興奨励の応募対象を大阪府から全国に拡大し交付件数を増やした。さらに生命科学研究助成、薬学系研究奨励の交付件数を増やした。

また、医学系研究奨励、薬学系研究奨励の被助成者を対象とした新規プログラム（継続助成）を開始した。

武田医学賞では贈呈者が100人目を迎えたことを記念し、9月20日(水)、ホテル阪急インターナショナル(大阪)にて受賞記念講演会を行った。同時に2006年度研究助成金の贈呈式を実施した。

なお、武田医学賞贈呈式、祝賀式については、11月13日(月)、例年の通りホテルオークラ東京にて実施した。

### (1) 科学技術に関する研究機関及び科学技術の研究に従事する者に対する奨励金の交付 (研究助成金)

- ① 生命科学研究助成は、財団理事、評議員、名誉顧問、選考委員、学士院会員(第7分科)、学士院賞受賞者(1999年以降医学関連)より推薦された生命科学分野の研究者を対象に、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、1件1,000万円7件計7,000万円を交付した。
- ② 一般研究奨励は、生命科学分野の新進研究者を対象に、12大学\*に候補者の推薦を依頼し、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、各大学共3件(東北大学、東京女子医科大学は各2件)、計34件を決定し、1件200万円計6,800万円を交付した。

\*対象12大学：北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、  
大阪大学、九州大学、琉球大学、慶應義塾大学、順天堂大学、  
東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学

- ③ 医学系研究奨励は、医学系の新進研究者を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ基礎系研究 29 件、臨床系研究 26 件の 55 件を決定し、1 件 200 万円 計 1 億 1,000 万円を交付した。

研究奨励の被助成者は、本年度開始した新規プログラム（継続助成）の応募対象に決定した。応募対象者からの所定の研究成果報告（公表論文または進捗状況報告書、報告期限：2008 年 3 月末）をもとに、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、基礎系研究 5 件、臨床系研究 5 件を決定し、1 件 300 万円 計 3,000 万円を 2008 年度に交付する。

- ④ 薬学系研究奨励は、薬学系の新進研究者を対象に公募を行ない、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ 30 件を決定し、1 件 200 万円 計 6,000 万円を交付した。研究奨励の被助成者は、本年度開始した新規プログラム（継続助成）の応募対象に決定した。応募対象者からの所定の研究成果報告（公表論文または進捗状況報告書、報告期限：2008 年 3 月末）をもとに、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ 5 件を決定し、1 件 300 万円 計 1,500 万円を 2008 年度に交付する。

- ⑤ 報彰基金事業は、循環系疾患および糖尿病を克服するための研究を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、研究助成金として 1 件 1,000 万円 5 件 計 5,000 万円、研究奨励金として 1 件 200 万円 32 件 計 6,400 万円、また研究会等の開催支援金として 1 件 100 万円 3 件 計 300 万円を交付した。報彰基金交付総額は、1 億 1,700 万円となった。

- ⑥ 特定研究助成は、研究機関を対象として、本邦の医学の発展に寄与する研究を対象に公募を行ない、選考委員会の選考を経て、理事会承認のうえ、4,500 万円 2 件、5,000 万円 5 件、6,000 万円 1 件、1 億円 1 件（交付件数 9 件） 総額 5 億円を交付した。

また、うつ病や自殺の増加など近年の時代背景を受け、研究者を対象として、精神疾患・脳疾患に関する研究を対象に公募を行ない、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ、100 万円 5 件、200 万円 3 件、300 万円 2 件、500 万円 1 件（交付件数 11 件） 総額 2,200 万円を交付した。

なお、前年度公募した「武田記念生薬学研究助成 2006」は、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、1 件 300 万円 10 件 計 3,000 万円を交付した。特定研究助成交付総額は 5 億 5,200 万円となった。

- ⑦ シンポジウム研究奨励は、第 14 回生命科学シンポジウムに応募したポスター発表者を対象に、シンポジウム組織委員で構成する選考委員会の選考を経て理事会

承認のうえ決定し、研究奨励金として1件50万円4件計200万円を交付した。

- ⑧ 高等学校理科教育振興奨励は、本年度より、全国の高等学校およびそれに準ずる教育機関を対象として実施した。高等学校理科教育に対し大きく貢献すると考えられる教育研究・実践を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、振興奨励金として1件30万円30件計900万円を交付した。
- ⑨ 杏雨書屋研究奨励は、杏雨書屋所蔵資料に関連する研究を対象に公募を行い、選考委員会の選考を経て理事会承認のうえ決定し、研究奨励金として1件50万円5件計250万円を交付した。

以上の結果、研究助成金の交付は、総件数235件計9億9,050万円となった。

[研究助成贈呈者を参照]

(2) 外国人留学生に対する研究の補助(留学支援)

日本において医学・医療の分野で研究する外国人留学生に対する支援を行った。

本年度は、8指定国より37名の留学生の支援を行った。

留学研究補助費は総額7,963万円を支出した。

なお、1964年に本事業を開始して以来、本年度3月末までに支援した外国人留学生の総数は1,104名である。

本年度の支援外国人留学生数は次の通りである。

<2007年3月31日現在(来日ベース)>

国 別	年度計画 (人数)	実 績(人数)				備 考
		本年度	前年度 繰 越	次年度 繰 上	計	
台 湾	6	5	0	0	5	1名辞退
タ イ	6	6	0	0	6	
フィリピン	4	3	0	0	3	1名辞退
韓 国	3	1	0	0	1	2名前年度に繰上来日済
中 国	10	7	4	0	11	3名次年度繰越
インドネシア	5	5	0	1	6	1名次年度から繰上来日
ベトナム	4	4	0	1	5	同 上
マレーシア	2	0	0	0	0	申請者なし
8ヶ国小計	40	31	4	2	37	
上記8ヶ国以外	10	0	0	0	0	申請者なし
総 計	50	31	4	2	37	

なお、本年度は中国における留学支援事業 25 周年を記念し、中華医学会(北京市)を訪問し選考委員との意見交換会を実施するとともに、四川大学(成都市)を訪問し最終選考に進んだ留学候補者の語学研修を視察した。

(3) 科学技術に関する注目すべき研究業績に対する褒賞(武田医学賞)

7月7日開催された選考委員会において、11件11名の候補者につき9名の選考委員による慎重かつ公正な選考の結果、医学界において顕著な業績を挙げられた下記2名の褒賞を決定し、理事会の承認を得た。

受賞者には、11月13日(月)開催の贈呈式において、武田医学賞(賞状と賞牌と盾)および副賞(1件1,500万円)をそれぞれ贈呈した。なお、本年度より副賞を1,000万円から1,500万円に改定した。

北村 惣一郎 博士

現 職：国立循環器病センター総長

対象研究業績：川崎病による炎症性冠動脈疾患に対する外科治療法の  
開発

笹川 千尋 博士

現 職：東京大学医科学研究所教授

対象研究業績：細菌の粘膜感染と宿主応答の細胞生物学的研究

また、受賞者が100人目を迎えたことを記念して、本年度より受賞記念講演会を開催することとし、9月20日(水)、ホテル阪急インターナショナル(大阪)にて実施した。さらに、小冊子「武田医学賞100人の横顔」3,000部を刊行し、武田医学賞贈呈式の席で出席者に贈呈したほか、財団関係者、本年度研究助成被助成者および希望者等に贈呈した。

(4) 東洋医書その他図書資料の保管、整理及び公開(杏雨書屋の運営)

①保管・整理

複写195,608枚、複写製本1,316冊、補修1冊を行った。

②公開

閲覧者は206名(閲覧図書1,245部3,839冊)、複写依頼は55名(複写部数191部、9,981枚)、展示室見学者は404名(特別展示会を含む)であった。

春季特別展示会は「曲直瀬道三―五百年の歴史」をテーマに5月22日(月)～27日(土)

の間、財団2階展示室にて開催した(見学者96名)。

また、秋季特別展示会を11月20日(月)～25日(土)の期間「杏雨書屋所蔵「恭仁山荘」  
「洗心文庫」の仏典写本」をテーマに開催した(見学者132名)。

### ③出版

機関誌「杏雨」9号を4月に発刊した。

また、9月に「水谷本草Ⅱ」250部、3月に「香字抄」200部を発行した。

### ④研究会

1)第17回研究会を以下の通り行った。

演題：「曲直瀬道三の医学」

講演者：遠藤次郎氏 所属 東京理科大学薬学部教授

演題：「曲直瀬今大路家文書の現状について」

講演者：町泉寿郎氏 所属 二松学舎大学東アジア学術総合研究所専任講師

日時：5月27日(土) 13:00～15:00

場所：武田薬品工業株式会社 大阪工場 体育館2階ホール

参加人員：73名

2)第18回研究会を以下の通り行った。

演題：「法隆寺と武田家」

講演者：河野昭昌氏

演題：「古写経の字すがた」

講演者：赤尾栄慶氏 所属 京都国立博物館学芸課企画室長

日時：11月25日(土) 13:00～15:00

場所：武田薬品工業株式会社 大阪工場 体育館2階ホール

参加人員：62名

### ⑤稀覯本購入

・化学要覧(Grondbeginselen der scheikunde)

ラヴォワジェ著 1800年刊 (支出 220万円)

・奈須玄盅・玄竹書状集他書状集4点 (支出 131.4万円)

合計 支出 351.4万円

(5) 科学技術の研究を助成振興する目的を達成するために必要な事業(シンポジウム)

第14回 武田科学振興財団生命科学シンポジウム The 14th Takeda Science  
Foundation Symposium on Bioscience を開催した。

テ ー マ：「酸素添加酵素」の 50 年 ― 展望と回顧 ―

The 50th Anniversary of Oxygenases: Advances and Reflections

組織委員：早石 修 博士 大阪バイオサイエンス研究所理事長

山本 尚三 博士 京都女子大学家政学部 教授

講 演：41 名（国内 15 名、国外 26 名）

ポスター発表(公募：32 件)

日 時：2006 年 4 月 10 日(月)～12 日(水)

場 所：京都ホテルオークラ

参 加 者：198 名

研究奨励金の交付：国内の若手研究者支援を目的にポスター発表者の中から組織委員を選考委員として優秀研究を 4 件選び、1 件 50 万円、計 200 万円を交付した。

#### (6) 基金への積立

財団事業を安定的に継続することを目的に、助成基金に 7.5 億円を積立てた。

以 上

# 貸借対照表

(2007年3月31日現在)

財団法人 武田科学振興財団

(円)

科 目	金 額
<b>I 資産の部</b>	
1. 流動資産	
現 立 前 未	312,036,075
金 替	2,112,874
預 費 入	3,387,570
金 用 金	71,415
流動資産合計	317,607,934
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
現 投 資	11,496,878
金 有 価 証 金 券	120,533,942,411
基本財産合計	120,545,439,289
(2) 特定資産	
報 助 杏	405,491,095
彰 成 雨	23,187,749,593
基 基 基	231,144,354
特定資産合計	23,824,385,042
(3) その他固定資産	
什 器 備 品	2,360,300
函 書 資 料	1,718,926,263
その他固定資産合計	1,721,286,563
固定資産合計	146,091,110,894
資産合計	146,408,718,828
<b>II 負債の部</b>	
1. 流動負債	
未 預	4,746,256
払 り 費 用 金	2,588,060
流動負債合計	7,334,316
2. 固定負債	
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	3,800,000
固定負債合計	3,800,000
負債合計	11,134,316
<b>III 正味財産の部</b>	
1. 指定正味財産	
受 贈 投 資 有 価 証 券	118,319,245,000
指定正味財産合計	118,319,245,000
(うち基本財産への充当額)	(118,319,245,000)
2. 一般正味財産	
(うち基本財産への充当額)	28,078,339,512
(うち特定資産への充当額)	( 2,226,194,289)
(うち特定資産への充当額)	( 23,824,385,042)
正味財産合計	146,397,584,512
負債及び正味財産合計	146,408,718,828

# 正味財産増減計算書

(2006年4月1日～2007年3月31日)

財団法人 武田科学振興財団

(円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	1,751,811,948
受取配当金	1,729,634,500
公社債受取利息	22,177,448
特定資産運用益	315,630,933
受取配当金	294,405,228
公社債受取利息	20,550,658
その他の受取利息	675,047
受取寄付金	867,000
特定資産評価益	2,657,463,120
経常収益計	4,725,773,001
(2) 経常費用	
研究助成事業費	1,024,192,596
報彰基金研究奨励金	117,000,000
報彰基金付随費	3,322,010
生命科学研究所助成金	70,000,000
一般研究奨励金	68,000,000
医学系研究奨励金	110,000,000
薬学系研究奨励金	60,000,000
特定研究助成金	552,000,000
シンポジウム研究奨励金	2,000,000
高校理科教育振興奨励金	9,000,000
杏雨書屋研究奨励金	2,500,000
付随費	30,370,586
外国人留学生支援事業費	85,666,877
研修補助金	79,628,654
付随費	6,038,223
武田医学賞褒賞事業費	54,785,313
褒賞随費	30,000,000
付随費	24,785,313
杏雨書屋運営事業費	83,391,647
研究調査費	6,706,405
運営協議会費	1,508,773
展示・研究会費	3,362,950
出版費	24,299,902
図書保管費	45,809,610
図書費	161,443
消耗什器備品費	357,210



# 財 産 目 録

(2007年3月31日現在)

財団法人 武田科学振興財団  
(円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	312,036,075		
現金手許有高	622,005		
普通預金(住友信託銀行：本店営業部)	223,281,947		
普通預金(三菱東京UFJ銀行：大阪中央支店)	31,334,516		
普通預金(三井住友銀行：十三支店1)	15,852,586		
普通預金(三井住友銀行：十三支店2)	945,021		
郵便貯金(淀川十三本町郵便局)	10,000,000		
定期預金(住友信託銀行：本店営業部)	10,000,000		
定期預金(三菱東京UFJ銀行：大阪中央支店)	10,000,000		
定期預金(三井住友銀行：十三支店)	10,000,000		
立替金(立替債券購入時経過利子)	2,112,874		
前払費用(火災保険料前払他)	3,387,570		
未収入金(労災保険料の概算払過大分)	71,415		
流動資産合計		317,607,934	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
現金預金	11,496,878		
普通預金(住友信託銀行：本店営業部)(一般)	11,496,878		
投資有価証券	120,533,942,411		
株式(武田薬品工業株15,306,500株)(指定)	118,319,245,000		
公社債(国債・東京電力社債他)(一般)	2,214,697,411		
基本財産合計	120,545,439,289		
(2) 特定資産			
報 彰 基 金	405,491,095		
普通預金(住友信託銀行：本店営業部)	130,670,124		
公社債(国債)	274,820,971		
助 成 基 金	23,187,749,593		
普通預金(住友信託銀行：本店営業部)	75,704,330		
株 式(武田薬品工業株 2,605,356株)	20,139,401,880		
公社債(国債・東京電力社債他)	2,972,643,383		
杏 雨 基 金	231,144,354		
普通預金(住友信託銀行：本店営業部)	97,218,158		
公社債(国債他)	133,926,196		
特定資産合計	23,824,385,042		
(3) その他固定資産			
什器備品(移動ラック、片斜面ケース他)	2,360,300		
図書資料(本草関係書籍等)	1,718,926,263		
その他固定資産合計	1,721,286,563		
固定資産合計		146,091,110,894	
資産合計			146,408,718,828
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用(給料未払他)	4,746,256		
預り金(預り源泉所得税他)	2,588,060		
流動負債合計		7,334,316	
2. 固定負債			
役員退職慰労引当金	3,800,000		
固定負債合計		3,800,000	
負債合計			11,134,316
正味財産			146,397,584,512

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1) 新会計基準の採用  
当期から「公益法人会計基準」（平成16年10月14日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ）を採用している。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
  - ①満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）によっている。
  - ②その他有価証券 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は正味財産増減として処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっている。  
(時価のあるもの)
- (3) 固定資産の減価償却の方法
  - ①什器備品 定額法によっている。
  - ②図書資料 本草および医書関係書籍等の古文書であり、減価償却を行わない。
- (4) 引当金の計上基準  
役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員報酬規程に基づく期末要支給額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理  
税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次の通りである。

(円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
現 金	1,271,796	597,023,082	586,798,000	11,496,878
投 資 有 価 証 金 券	2,721,728,204	118,409,237,289	597,023,082	120,533,942,411
小 計	2,723,000,000	119,006,260,371	1,183,821,082	120,545,439,289
特定資産				
報 助 杏	524,052,865	270,686,880	389,248,650	405,491,095
彰 成 雨	2,650,000,000	22,515,898,593	1,978,149,000	23,187,749,593
基 基 基	230,000,000	100,135,854	98,991,500	231,144,354
小 計	3,404,052,865	22,886,721,327	2,466,389,150	23,824,385,042
合 計	6,127,052,865	141,892,981,698	3,650,210,232	144,369,824,331

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次の通りである。

(円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
現 金	11,496,878		(11,496,878)	
投 資 有 価 証 金 券	120,533,942,411	(118,319,245,000)	(2,214,697,411)	
小 計	120,545,439,289	(118,319,245,000)	(2,226,194,289)	(0)
特定資産				
報 助 杏	405,491,095		(405,491,095)	
彰 成 雨	23,187,749,593		(23,187,749,593)	
基 基 基	231,144,354		(231,144,354)	
小 計	23,824,385,042	0	(23,824,385,042)	(0)
合 計	144,369,824,331	(118,319,245,000)	(26,050,579,331)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りである。

(円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什 器 備 品	32,762,565	30,402,265	2,360,300
図 書 資 料	1,718,926,263	0	1,718,926,263
合 計	1,751,688,828	30,402,265	1,721,286,563

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次の通りである。

(円)

区 分	帳簿価額	時 価	評価損益
短 期 国 債	98,152,196	97,590,972	-561,224
利 付 国 債	4,325,098,230	4,323,163,856	-1,934,374
東 京 電 力 社 債	689,379,061	686,320,565	-3,058,496
一 般 事 業 債	299,746,153	302,559,232	2,813,079
利 付 電 信 電 話 債 券	98,823,289	99,329,071	505,782
近 畿 日 本 鉄 道 転 換 社 債	84,889,032	86,515,064	1,626,032
合 計	5,596,087,961	5,595,478,760	-609,201

# 収 支 計 算 書

(2006年4月1日～2007年3月31日)

財団法人 武田科学振興財団

(円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	1,747,646,500	1,748,617,659	-971,159	
配当金収入	1,729,634,500	1,729,634,500	0	
公社債利息収入	18,012,000	18,983,159	-971,159	利回り増
特定資産運用収入	308,378,228	311,151,475	-2,773,247	
配当金収入	294,405,228	294,405,228	0	
公社債利息収入	13,973,000	16,071,200	-2,098,200	利回り増
その他利息収入	0	675,047	-675,047	預金利息
寄付金収入	6,000,000	867,000	5,133,000	寄付の減
雑収入	100,000	0	100,000	
事業活動収入計	2,062,124,728	2,060,636,134	1,488,594	
2. 事業活動支出				
研究助成事業費支出	1,032,500,000	1,024,192,596	8,307,404	
報彰基金研究奨励金支出	120,000,000	117,000,000	3,000,000	交付件数の増減
報彰基金付随費支出	5,000,000	3,322,010	1,677,990	
生命科学研究助成金支出	70,000,000	70,000,000	0	
一般研究奨励金支出	72,000,000	68,000,000	4,000,000	交付2件辞退
医学系研究奨励金支出	110,000,000	110,000,000	0	
薬学系研究奨励金支出	60,000,000	60,000,000	0	
特定研究助成金支出	552,000,000	552,000,000	0	
シンポジウム研究奨励金支出	2,000,000	2,000,000	0	
高校理科教育振興奨励金支出	9,000,000	9,000,000	0	
杏雨書屋研究奨励金支出	2,500,000	2,500,000	0	
付随費支出	30,000,000	30,370,586	-370,586	
外国留学生支援事業費支出	122,000,000	85,666,877	36,333,123	
研修補助金支出	112,000,000	79,628,654	32,371,346	留学生減
付随費支出	10,000,000	6,038,223	3,961,777	同上に伴う減
武田医学賞褒賞事業費支出	55,000,000	54,785,313	214,687	
褒賞金支出	30,000,000	30,000,000	0	
付随費支出	25,000,000	24,785,313	214,687	
杏雨書屋運営事業費支出	99,500,000	83,391,647	16,108,353	
研究調査費支出	8,000,000	6,706,405	1,293,595	
運営協議会費支出	1,800,000	1,508,773	291,227	
展示・研究会費支出	3,400,000	3,362,950	37,050	
出版費支出	32,500,000	24,299,902	8,200,098	出版遅れ
図書保管費支出	50,000,000	45,809,610	4,190,390	
図書費支出	1,500,000	161,443	1,338,557	
消耗什器備品費支出	1,000,000	357,210	642,790	
付随費支出	1,300,000	1,185,354	114,646	
シンポジウム事業費支出	60,000,000	36,157,156	23,842,844	

開催費支出	50,000,000	34,939,358	15,060,642	支払の一部が 前期に発生
準備費支出	10,000,000	1,217,798	8,782,202	
管理費支出	146,200,000	122,554,757	23,645,243	
役員報酬支出	21,900,000	21,868,000	32,000	
給料手当支出	49,500,000	40,716,190	8,783,810	増員せず
福利厚生費支出	9,000,000	8,806,779	193,221	
会議費支出	5,000,000	3,428,602	1,571,398	
旅費交通費支出	1,300,000	610,446	689,554	
通信運搬費支出	3,000,000	2,994,229	5,771	
消耗什器備品費支出	6,000,000	4,233,923	1,766,077	
広報費支出	13,000,000	3,012,250	9,987,750	DVDの改定見送り
光熱費支出	1,500,000	1,020,684	479,316	
事務所賃借料支出	28,200,000	28,123,200	76,800	
事務用品費支出	4,700,000	4,635,541	64,459	
会計監査報酬支出	600,000	630,000	-30,000	
雑費支出	2,500,000	2,474,913	25,087	
事業活動支出計	1,515,200,000	1,406,748,346	108,451,654	
事業活動収支差額	546,924,728	653,887,788	-106,963,060	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	125,000,000	125,000,000	0	
報彰基金取崩収入	125,000,000	125,000,000	0	
投資活動収入計	125,000,000	125,000,000	0	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	751,337,019	756,015,009	-4,677,990	
報彰基金繰入支出	1,337,019	6,015,009	-4,677,990	取崩過大分の組戻
助成基金繰入支出	750,000,000	750,000,000	0	
固定資産取得支出	12,000,000	3,514,000	8,486,000	
図書資料取得支出	10,000,000	3,514,000	6,486,000	取得対象図書なし
什器備品取得支出	2,000,000	0	2,000,000	
投資活動支出計	763,337,019	759,529,009	3,808,010	
投資活動収支差額	-638,337,019	-634,529,009	-3,808,010	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	48,000,000	0	48,000,000	
当期収支差額	-139,412,291	19,358,779	-158,771,070	
前期繰越収支差額	290,914,839	290,914,839	0	
次期繰越収支差額	151,502,548	310,273,618	-158,771,070	

(注1) 収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」(平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ)の記載の3区分の様式によっている。

(注2) 資金の範囲には、現金預金、立替金、前払費用、未収入金、未払費用および預り金を含んでいる。

# 監 査 報 告 書

2007年 4月 24日

財団法人 武田科学振興財団  
理事長 横山 巖 殿

財団法人 武田科学振興財団

監 事 田 浦 清 ㊟

---

監 事 石 川 正 ㊟

---

私たちは、財団法人武田科学振興財団の平成18年4月1日から平成19年3月31日までの2006年度における会計および事業の監査を行なった結果、事業報告書、財務諸表すなわち貸借対照表、正味財産増減計算書および財産目録、ならびに収支計算書は正確かつ妥当であり、理事の業務執行は誠実に行なわれていたことを確認した。

以 上

## 独立監査人の監査報告書

平成19年4月18日

財団法人 武田科学振興財団

理事長 横山 巖 殿

監査法人 トーマツ

代表社員 公認会計士 高木 将雄 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、財団法人武田科学振興財団の平成18年4月1日から平成19年3月31日までの2006年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録、並びに収支計算書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。この財務諸表等の作成責任は理事者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

監査の結果、当監査法人の意見は次のとおりである。

- (1)財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、財団法人武田科学振興財団の2006年度末日現在の財政状態並びに同年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。
- (2)収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に従って、財団法人武田科学振興財団の2006年度の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

財団法人武田科学振興財団と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

### 特定研究助成[ I ]2006交付対象機関

研究代表者	研究機関	職位	研究題目
牛首 文隆	旭川医科大学	教授	内皮・上皮系を場とした生体防御・炎症制御と疾患病態
寒川 賢治	国立循環器病センター研究所	副所長	循環調節ペプチドによる組織幹細胞の賦活化に基づく画期的な循環器疾患治療法の開発
佐々木 裕之	情報・システム研究機構	教授	エピゲノム解析技術を用いた難病解明へのアプローチ
田中 啓二	東京都医学研究機構	所長代行	蛋白質分解異常をモニターする創薬モデルマウスの開発
中尾 昭公	名古屋大学	教授	腫瘍溶解性ウイルスによる革新的治療法の開発とPhase I / II 臨床試験の遂行
平尾 敦	金沢大学	教授	がん幹細胞発生・維持機構の解明
古川 貴久	大阪バイオサイエンス研究所	研究部長	脳神経システムの機能構築と機能制御の融合的研究
宮下 保司	東京大学	教授	記憶の形成・再固定過程についての新しい画像的アプローチ
森 直樹	琉球大学	教授	沖縄から俯瞰した病原生物解析 ～本土への挑戦状～

### 2006年度 生命科学研究所助成贈呈者

氏名	所属機関	職位	研究題目
飯野 正光	東京大学大学院医学系研究科	教授	カルシウムシグナルを介したグリア・神経細胞間相互作用機構の解明
五十嵐 和彦	東北大学大学院医学系研究科 生物化学分野	教授	転写因子Bach2による肺呼吸機能の恒常性維持
月田 早智子	京都大学医学部	教授	細胞アピカル膜および細胞接着構造の分子機構と機能
中田 力	新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター	教授	MR Microscopy による老人斑の検出
島山 昌則	北海道大学遺伝子病制御研究所	教授	ヘリコバクター・ピロリによる胃癌発症の分子機構解明
湊 長博	京都大学大学院生命科学研究科	教授	Rap1Gシグナル系による免疫造血系細胞間相互作用の制御とその異常による病態の解明
吉原 良浩	理化学研究所脳科学総合研究センター	チームリーダー	終脳特異的樹状突起性細胞認識分子テレンセファリンによる脳のやわらかさの調節機構

### 2006年度 報彰基金研究助成贈呈者

《テーマ:心臓疾患、高血圧、動脈硬化、脳血管障害、糖尿病》

氏名	所属機関	職位	研究題目
岡島 史和	群馬大学生体調節研究所 シグナル伝達分野	教授	血管病の新しいマーカーとしてのリプリン脂質とその診断・予知・予防・治療戦略
小川 渉	神戸大学大学院医学系研究科 糖尿病代謝・消化器・腎臓内科	助教授	肝臓の転写因子を標的とした生活習慣病の新たな治療法の開発
塩井 哲雄	京都大学医学部附属病院 循環器内科	助手	心臓老化の分子基盤の解明と高齢者心不全治療への応用
宮崎 徹	東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 分子病態医科学	教授	血管病巣部マクロファージの機能制御による動脈硬化の新しい治療法開発を目指して
室原 豊明	名古屋大学大学院医学系研究科 病態内科学講座循環器内科学	教授	細胞移植と遺伝子治療を組み合わせた効率的な血管再生療法の開発

### 特定研究助成[ II ]2006贈呈者

氏名	所属機関	職位	研究題目
今泉 和則	宮崎大学医学部 解剖学講座分子細胞生物学分野	教授	異常タンパク質の排出分解機構活性化による神経変性疾患防御法の開発
榎本 和生	国立遺伝学研究所 新分野創造センター	助教授	ダウン症候群の発症メカニズムの解明:ショウジョウバエ神経系をモデルとした分子遺伝的アプローチ
桜井 武	筑波大学 大学院人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻	助教授	ナルコレプシーなどの睡眠障害の病態生理に関する分子生物学的研究
塩見 春彦	徳島大学ゲノム機能研究センター	教授	脆弱X症候群 ートランスポゾン仮説の検証ー
竹島 浩	京都大学大学院薬学研究科	教授	Ca <sup>2+</sup> シグナル異常と統合失調症
田中 光一	東京医科歯科大学 大学院疾患生命科学研究部 分子神経科学	教授	発達障害モデルを用いた広汎性脳機能発達障害の分子機構
田中 正人	理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター自然免疫研究チーム	チームリーダー	死細胞貪食機構を応用した多発性硬化症の治療法の開発
富田 江一	自然科学研究機構生理学研究所 行動・代謝分子解析センター	助手	モデル動物を用いた弱視の効果的治療方法の探究
三浦 直行	浜松医科大学医学部 生化学第二講座	教授	会話言語異常とフォークヘッド遺伝子FOXP2
安井 正人	慶應義塾大学医学部 薬理学教室	教授	脳の水チャネル、アクアポリンに関する研究

氏名	所属機関	職位	研究題目
渡邊 大	京都大学大学院医学研究科	教授	神経伝達可逆的制御技術によるドーパミン調節系異常の病態の解明

### 武田記念生薬学研究助成2006贈呈者

氏名	所属機関	職位	研究題目
飯塚 晃	日本薬科大学 漢方薬学科漢方薬物学分野	助教授	漢方・生薬の抗動脈硬化作用に関する研究
大塚 英昭	広島大学 大学院医歯薬学総合研究科	教授	ケミカルバイオロジーを志向した植物・微生物由来の生物活性物質探索研究
古徳 直之	大阪大学大学院薬学研究科	助手	分子標的戦略に基づく抗がん天然物質の探索
小松 かつ子	富山大学 和漢医薬学総合研究所	教授	薬用資源の永続的利用法を本草書から探る－大黄、菘朮・鬱金類、滑石、竜骨について
渋谷 雅明	東京大学大学院薬学系研究科	助教授	薬用ニンジン有効成分ジンセノサイドの生合成研究
高山 廣光	千葉大学大学院薬学研究院	教授	漢薬「胡滿強」の起源植物由来成分を活用した新規抗腫瘍薬開発のための先導化合物創製
野口 博司	静岡県立大学薬学部 生薬学講座	教授	薬用植物由来ポリケチド化合物の生合成研究
野原 稔弘	熊本大学 大学院医学薬学研究部 天然薬物学分野	教授	PregnaneのPro-drug・ステロイド配糖体の機能解明研究
本多 義昭	京都大学大学院薬学研究科	教授	イラン北部アルボルス山系におけるトルコ系民族の薬物
森田 博史	星薬科大学薬学部 生薬学教室	教授	マレーシアの未利用植物資源を素材とする制がん性天然薬物の調査研究

### 2006年度 一般研究奨励贈呈者

氏名	所属機関	職位	研究題目
瀬谷 司	北海道大学大学院医学研究科	教授	ウイルス感染回避の自然免疫分子機構
坪井 泰之	北海道大学大学院理学研究科 化学専攻	助教授	レーザー衝撃波を用いた生組織細胞への遺伝子導入方法の確立
佐藤 美洋	北海道大学大学院薬学研究科 創薬化学講座 精密合成化学分野	教授	環境低負荷型分子変換プロセスを志向した新しい反応の開発と応用
松原 洋一	東北大学大学院医学系研究科	教授	シグナル伝達異常による先天異常の分子機構
高橋 一郎	東北大学病院 矯正歯科	講師	軟骨細胞の機械的刺激応答に伴う細胞骨格再構成と軟骨細胞分化抑制
本田 賢也	東京大学大学院医学系研究科 免疫学講座	助手	病原体核酸の認識と細胞内輸送を制御する分子の同定
川原 茂敬	東京大学大学院薬学系研究科	助教授	脳機能障害後に形成される代償的学習回路の解析
細谷 紀子	東京大学医学部附属病院 無菌治療部	助手	網羅的ゲノム情報を基盤とした慢性骨髄性白血病の急性転化の分子機構の解明
宮田 卓樹	名古屋大学 大学院医学系研究科 細胞生物学	教授	ガン転移・上皮間葉転換との共通性に着目したニューロン移動開始機構の研究
吉久 徹	名古屋大学 物質科学国際研究センター	助教授	tRNAのintronはなぜ存在するか？－intron依存修飾システムとの関係
岡島 徹也	名古屋大学 大学院生命農学研究科 応用分子生命科学専攻 応用生命科学講座	助手	糖転移酵素によるNotch受容体の構造と機能の制御機構
渡部 則彦	京都大学大学院医学研究科 消化器内科学	助手	樹状細胞活性化因子TSLPによる粘膜免疫制御機構の解明
山根 久代	京都大学大学院農学研究科	助手	自家不和合性を制御するF-boxタンパク質の機能解明
張 秋梅	京都大学大学院理学研究科	助教授	酸化DNA塩基損傷の修復酵素の同定とその生物学的機能に関する研究
東 純一	大阪大学大学院薬学研究科	教授	薬効ゲノム情報に基づく医薬品の個別化適正治療に関する研究
村上 富士夫	大阪大学 大学院生命機能研究科	教授	精神機能の発達における神経細胞移動の役割
橋本 浩一	大阪大学大学院医学系研究科 細胞神経科学	助手	生後発達期における神経回路網再編成に関わるメカニズムの解明
兼松 隆	九州大学大学院歯学研究院	助教授	過食と肥満に関わる新規分子の基礎的研究
正山 征洋	九州大学大学院薬学研究院	教授	大麻生合成酵素遺伝子に関する研究
稲永 純二	九州大学 先導物質化学研究所	教授	非天然型ヒドロキシアミノ酸光学異性体類の触媒的高純度大量合成法の開拓
荻谷 研一	琉球大学大学院医学研究科 細胞生物学分野	教授	Rap2-JNK新規シグナル伝達経路のノックアウトマウスを用いた機能解析
竹村 明洋	琉球大学 熱帯生物圏研究センター	助教授	サンゴ礁生物から明らかにする生物時計の分子制御の多様性

氏名	所属機関	職位	研究題目
松崎 吾朗	琉球大学遺伝子実験センター 分子感染防御分野	教授	Interleukin-17による自然免疫および獲得免疫の制御機構の解明
高田 耕司	東京慈恵会医科大学 生化学講座第1	助教授	凝集体構成分子の効率的単離・同定による神経変性機構の解明
浦島 充佳	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 臨床研究開発室	助教授	癌免疫監視機構に関する研究:癌細胞上MICA/MICB、ナチュラルキラー細胞上NKG2Dの癌治療経過をみる上での臨床的意義に関する研究
穂苅 厚史	東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科	助手	一酸化窒素と肝疾患
榊原 康文	慶應義塾大学理工学部	教授	比較ゲノム解析のための情報処理システムの開発
泰岡 顕治	慶應義塾大学理工学部	助教授	分子動力学専用計算機を用いた創薬手法の開発
佐藤 智典	慶應義塾大学理工学部 生命情報学科	教授	糖鎖認識を利用した新たな遺伝子デリバリーシステムの構築と機能解析
太田 博明	東京女子医科大学医学部 産婦人科学教室	主任 教授	骨粗鬆症の発症予防を目的とした若年女性のライフスタイルへの介入方法の確立に関する研究
山口 直人	東京女子医科大学医学部 衛生学公衆衛生学(二)教室	主任 教授	大腸がん検診による大腸がん罹患リスクの低減効果に関する疫学研究
新井 一	順天堂大学医学部 脳神経外科学	教授	特発性正常圧水頭症の髄液診断法の確立
稲田 英一	順天堂大学医学部 麻酔科学ペインクリニック講座	教授	脳内神経ネットワークから見たモルヒネと吸入麻酔薬の作用機序に関する研究
高橋 和久	順天堂大学医学部 呼吸器内科学講座	教授	悪性胸膜中皮腫の抗癌剤耐性と予後因子に関する検討

## 2006年度 医学系研究奨励贈呈者

《基礎系研究》

氏名	所属機関	職位	研究題目
青田(浦) 聖恵	大阪大学大学院医学系研究科	助手	リンカーヒストンの多種多様性に着目した細胞の未分化性を規定するクロマチン構造の解明
新井 文用	慶應義塾大学医学部 発生・分化生物学	助手	幹細胞ニッチ制御の成立・維持の分子機構
荒木 敏之	国立精神・神経センター 神経研究所疾病研究第五部	部長	軸索保護を用いた神経変性疾患治療の試み
池田 啓子	自治医科大学 分子病態治療研究センター 細胞生物研究部	助教授	嗅上皮の発生と再生を司る分子機構
伊藤 光宏	神戸大学医学部 保健学科	教授	転写メディエーターによる造血幹細胞の維持機構
岩崎 浩己	九州大学病院 遺伝子細胞療法部	助手	造血前駆細胞の分化・増殖制御による新しい抗アレルギー療法開発のための基礎的研究
岩本 隆宏	福岡大学医学部 薬理学	講師	心血管リモデリングにおけるNa/Ca交換輸送体の役割の解明とその治療応用
大島 正伸	金沢大学がん研究所 腫瘍遺伝学研究分野	教授	胃がん発生における細菌感染と炎症反応の役割の研究
小笠原 康悦	国立国際医療センター 難治性疾患研究部 臨床免疫研究室	室長	NKG2Dを標的とした糖尿病の新規治療、診断のための基礎研究
岡本 安雄	香川大学医学部 生体分子医学講座生化学	助手	抗精神病薬標的分子としてのアナンダミド合成酵素の分子機能解析
長田 真一	秋田大学医学部 21世紀COEプログラム	COE 主任 研究員	核膜内膜蛋白による心臓・血管形成の制御機構の解明
鎌田 英明	広島大学 大学院医歯薬学総合研究科	助教授	NASHに起因する肝臓癌発生における酸化ストレス及びMAPキナーゼホスファターゼの関与
木下 和生	滋賀県立成人病センター 研究所遺伝子研究部門	専門 研究員	突然変異誘導因子AIDによる発がん
佐藤 元彦	横浜市立大学 大学院医学研究科 循環制御医学	準教授	G蛋白活性制御因子は疾病への分岐点となるか?
鈴木 淳史	理化学研究所 発生・再生科学総合研究 センター	研究員	フローサイトメトリーを用いた腸幹/前駆細胞の分離・回収と機能解析
千住 覚	熊本大学 大学院医学薬学研究部 免疫識別学分野	助教授	胚性幹(ES)細胞由来の樹状細胞を用いた免疫制御療法
高橋 智聡	京都大学大学院医学研究科 分子腫瘍学	助教授	複合遺伝子変異マウスを用いた発がん・転移メカニズムの解析からヒト癌の理解と克服へ
竹田 扇	山梨大学 大学院医学工学総合研究部	教授	神経細胞における原始線毛形成機構とその機能の解析

氏名	所属機関	職位	研究題目
田中 元雅	理化学研究所 脳科学総合研究センター 病因遺伝子研究グループ	ユニット リーダー	ポリグルタミン病発症分子機構の解明
長井 良憲	東京大学医学研究所 感染・免疫部門	助手	Toll-like Receptorシグナルによる造血分化制御機構の解明
永田 浩一	愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所 神経制御学部	室長	悪性腫瘍・神経疾患の原因遺伝子セプチンの機能解析
中村 晃	東北大学加齢医学研究所 遺伝子導入研究分野	講師	抑制型MHCクラスI受容体PIR-Bを標的とした新たながん免疫療法の開発
長谷川 秀樹	国立感染症研究所 感染病理部	室長	成人T細胞白血病(ATL)の発症予防・治療法の開発
尾藤 晴彦	東京大学大学院医学系研究科	助教授	単一シナプス内蛋白相互作用の解析と定量
広常 真治	大阪市立大学 大学院医学研究科 細胞機能制御学	教授	中心体特異的タンパク質の網羅的解析による細胞分裂と紡錘体形成のメカニズム解明
古川 貴久	大阪バイオサイエンス研究所 発生生物学部門	研究 部長	網膜視細胞の発生機構の解析と遺伝的網膜疾患の原因遺伝子の同定
古瀬 幹夫	神戸大学大学院医学系研究科	教授	上皮細胞間接着構造を構成する新規タンパク質群の同定と機能解析
松尾 勲	母子保健総合医療センター 研究所病因病態部門	部長	細胞レベルでの先天性奇形発症機構の解明
松崎 有未	慶應義塾大学医学部 生理学教室	特別 研究 助教授	間葉系幹細胞の分離・同定による生物学的機能解析と発生学的起源探究

《臨床系研究》

新井 郷子	東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター	助手	新しいポリコムグループ分子MBT-1による急性白血病治療の開発
井上 治久	京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座	助手	孤発性筋萎縮性側索硬化症患者神経幹細胞を用いた新規治療法の開発
岩田 淳	東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻	拠点 形成 研究員	ポリグルタミン病における凝集蛋白質の分解機構におけるアセチル化の意義に関する検討と新規治療法の探索
梶島 健治	産業医科大学 皮膚科	助教授	形質細胞の制御による自己免疫疾患克服の試み
川端 浩	京都大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学	助手	鉄代謝関連分子hepcidinの制御による貧血治療へのアプローチ
桑迫 健二	宮崎大学医学部 第一内科	助手	容体活性調節蛋白によるG蛋白共役型受容体の分子調節機構の解明およびその臨床応用
小井戸 薫雄	東京慈恵会医科大学 内科学講座	講師	Toll-like receptor agonistsによる成熟樹状細胞とheat-shocked脾臓癌との融合細胞を用いた脾臓癌に対する腫瘍抗原特異的なpolyclonal CTLの誘導
小林 孝志	千葉大学医学部附属病院 皮膚科	講師	Matrix metalloproteinase-9発現調節による抗炎症治療についての研究
小林 隆志	九州大学生体防御医学研究所 免疫制御学分野	助手	免疫寛容を誘導する樹状細胞の樹立とアレルギー治療への応用
菅原 明	東北大学病院 総合診療部	講師	ホルモン核内受容体の活性化を介した脈管系調節機構の解明および抗動脈硬化療法・治療的血管再生療法への応用
滝 智彦	京都府立医科大学 分子病態検査医学	講師	未知の染色体転座からの新規癌関連キメラ遺伝子の同定とその迅速及び簡易同定法の開発
伊達 紫	宮崎大学医学部 神経呼吸内分泌代謝	特任 助教授	摂食調節系の分子メカニズムの解明と代謝疾患への治療応用に関する研究
都築 忍	愛知県がんセンター研究所 遺伝子医療研究部	室長	小児リンパ性白血病における多段階白血病化機構の解明とその治療・予防への応用
中島 利博	聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター ゲノム医学研究部門	副センター 長・教授	小胞体“蛋白分解亢進症”という調節リウマチの新しい疾患概念の提唱
中村 英二郎	京都大学大学院医学研究科 器官外科学泌尿器病態学講座	助手	ショットガンプロテオミクスを用いた新規腫瘍マーカーの同定
半下石 明	東京大学医学部附属病院 血液腫瘍内科	特任 講師	造血器腫瘍における新規癌抑制遺伝子候補の機能解析
彦惣 俊吾	大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学	COE 特任 研究員	心筋におけるTNF- $\alpha$ 産生抑制機構の解明と心不全治療への応用
星野 友昭	久留米大学医学部 第一内科	講師	間質性肺炎発症における炎症性サイトカインIL-18とレドックス制御の関与の解明
松浦 徹	名古屋大学 大学院医学系研究科 神経遺伝情報学	助教授	SCA10非翻訳領域ATTCTリピート伸長変異の神経変性メカニズムの解明

氏名	所属機関	職位	研究題目
丸山 啓介	東京大学大学院医学系研究科 脳神経外科	助手	頭部定位放射線治療計画ソフトウェアへの拡散テンソルトラクトグラフィの統合システムの開発
本村 亘	旭川医科大学 微生物学講座	研究員	肝細胞PPAR $\gamma$ をターゲットとした新たな脂肪肝治療法の開発
森信 暁雄	神戸大学大学院医学系研究科 立証検査医学講座	助教授	樹状細胞分化の制御と細胞治療への応用
山形 哲也	獨協医科大学 血液内科	助教授	自然免疫系リンパ球の細胞生物学的機能と生体防御における役割の解析
山下 啓子	名古屋市立大学 大学院医学研究科 腫瘍・免疫外科学	助教授	ホルモン依存性乳癌の発症メカニズムの解析
吉田 裕樹	佐賀大学医学部 分子生命科学講座	教授	免疫抑制性サイトカインIL-27を用いた自己免疫疾患制御に関する研究
吉田 優	神戸大学医学部附属 医学医療国際交流センター 難治性疾患病態解析分野	助手	クローン病に対する新規遺伝子治療の開発

### 2006年度 報彰基金研究奨励贈呈者

《テーマ:心臓疾患、高血圧、動脈硬化、脳血管障害、糖尿病》

氏名	所属機関	職位	研究題目
青木 浩樹	山口大学医学部	助教授	臨床応用に向けた大動脈瘤退縮分子機構の解明
赤尾 昌治	京都大学大学院医学研究科 循環器内科	助手	サイクロフィリンDを分子標的とした心筋保護治療戦略の確立
足立 健	慶應義塾大学医学部 医化学教室	専任 講師	メタボリックシンドロームにおける蛋白質チオール修飾の役割
阿邊山 和浩	鹿児島大学 大学院医学総合研究科	客員 助教授	新規抗炎症療法コンセプト確立と動脈硬化症への応用
栗津 邦男	大阪大学大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻	教授	血管疾患の診断・治療を同時に行うための新規中空型光ファイバーとレーザー内視治療カテーテルの開発
池田 宏二	京都府立医科大学 循環器病態制御学	博士 研究員	血管発生・分化・再生に関する新規VEGF受容体・TIE2結合蛋白の機能解析
磯 達也	群馬大学大学院医学系研究科 臓器病態内科学	助手	Notchシグナルによる血管平滑筋細胞分化の調節機構の解明と新規治療法への応用
江頭 健輔	九州大学大学院医学研究院 循環器内科学	助教授	動脈硬化病変(再狭窄、プラーク不安定化)の分子機序における血管新生因子の役割解明とナノテクデリバリーシステムによる新しい治療法探索
海老原 健	京都大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科	特任 講師	レプチンを用いた新しい糖尿病治療法の開発
大久保 実	冲中記念成人病研究所	主任 研究員	高トリグリセリド血症の新しい分子機構の解析
川上 明夫	東京医科歯科大学 医学部附属病院老年病内科	助手	アポリポroteinCIIIの催炎症作用の細胞分子機構:高トリグリセリド血症の動脈硬化促進機序の解明をめざし
小池 智也	山梨大学 大学院医学工学総合研究部 分子病理学講座	助手	急性冠症候群ならびに大動脈瘤におけるMMPsの役割-遺伝子改変ウサギを用いた研究
小谷 光	川崎医科大学 糖尿病・内分泌内科	講師	生活習慣病による血管病の発症・進展に関わる分子メカニズムの解明
澤本 和延	慶應義塾大学医学部 ブリヂストン神経発生・再生学 寄附講座	助教授	マウス脳梗塞モデルを用いた薬剤投与によるニューロン再生促進効果の検討
三部 篤	国立成育医療センター研究所 薬剤治療研究部実験薬理室	室長	遺伝子改変マウスを用いた心筋症から心不全への移行機序の解明
斯波 真理子	国立循環器病センター研究所 バイオサイエンス部	室長	新規遺伝子ARHの発現制御機構の解明と高脂血症治療への応用
杉山 正悟	熊本大学大学院医学薬学研究部 循環器病態学講座	講師	スタチンによるコレステロール低下療法に付加したPPAR $\gamma$ 活性化による頸動脈プラーク退縮の検討
高橋 英夫	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 薬理学	講師	病巣指向性の単クローン抗体による脳梗塞、心筋梗塞およびクモ膜下出血後脳血管攣縮の治療法開発
津田 和志	和歌山県立医科大学 循環器内科	講師	メタボリックシンドロームの細胞膜機能異常とCa代謝動態
東口 治弘	千葉大学大学院医学研究院 循環器病態内科学	医員	心不全発症、進展に関与する遺伝子の検討 12-lipoxygenaseの心臓における役割について
野村 裕一	鹿児島大学 大学院医学総合研究科 発生発達成育学	助教授	迅速診断法開発に向けての川崎病におけるbiomarker検索
林 良敬	名古屋大学環境医学研究所 発生・遺伝分野	助教授	プレプログルカゴン遺伝子発現を指標とした膵島発生分化機構の解析
藤尾 慈	大阪大学大学院薬学研究科	助教授	心筋組織幹細胞による血管形成に関する分子生物学的

氏名	所属機関	職位	研究題目
藤谷 与士夫	順天堂大学大学院 先進糖尿病治療学講座	講師	膵β細胞機能維持にかかわる転写因子PDX1の上流シグナルの解析
前島 洋平	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学	助手	血管新生抑制因子による糖尿病性腎症治療効果及び作用機序の検討
松下 健二	国立長寿医療センター研究所 口腔疾患研究部	部長	臓器特異的エキソサイトーシス制御因子による新しいアテローム血栓症治療薬の開発
松村 剛	熊本大学大学院医学薬学研究部 代謝内科学	医員	スタチンによる新規動脈硬化抑制機序の解明ーマクロファージPPARγ活性誘導効果の意義
丸茂 丈史	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科	助手	内皮前駆細胞を用いた腎臓再生療法の開発
安川 秀雄	久留米大学 循環器病研究所	講師	炎症性シグナルの制御による新しい心不全治療の開発
矢田 豊隆	川崎医科大学 医用工学	講師	エリスロポエチン投与後の内皮由来過分極因子(H <sub>2</sub> O <sub>2</sub> )による心筋虚血時冠微小循環改善効果
姚 建	山梨大学医学部 分子情報伝達学講座	助教授	腎傍系球体装置におけるレニン分泌制御機構:ギャップ結合と血管内皮由来弛緩因子の役割
和田 隆志	金沢大学医学部附属病院 血液浄化療法部	助教授	糖尿病性臓器合併症の進展にはたす骨髄由来間葉系細胞の意義

### 2006年度 薬学系研究奨励贈呈者

氏名	所属機関	職位	研究題目
伊東 秀記	愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所 神経制御学部 臨床薬理学研究室	研究員	神経変性疾患に見られる異常タンパク質凝集体に蓄積するセブチンの機能解析
上杉 志成	京都大学化学研究所	教授	ケミカルバイオロジーによる遺伝子改変技術創成
榎本 理世	神戸学院大学薬学部	助手	生薬由来フラボンのがん化学療法への応用
大島 隆幸	徳島文理大学香川薬学部 創薬学科薬事科学講座	講師	RNA干渉法を利用したPPAR-γ2特異的ノックダウンマウスの作出と機能解析
岡田 直貴	大阪大学大学院薬学研究科 応用医療薬科学専攻 薬剤学分野	講師	ケモカインを利用した免疫細胞の腫瘍組織内動員の増強とその癌免疫遺伝子治療への応用
加藤 大	静岡県立大学薬学部	講師	固定化レセプターを利用したHTSなりガンド探索法の開発
鎌田 春彦	(独)医薬基盤研究所 創薬プロテオミクスプロジェクト	主任 研究員	細胞内治療の最適化を目指した新規ペプチド性キャリアの網羅的分子設計とそのDDSへの展開
菊地 晴久	東北大学大学院薬学研究科	助手	天然物由来の自然免疫制御物質の創製
倉永 英里奈	東京大学大学院薬学系研究科 遺伝学教室	助手	がん細胞の生存を規定するIAP分解制御機構の遺伝学的解明
輿水 崇鏡	京都大学大学院薬学研究科 ゲノム創薬科学分野	講師	副腎皮質機能不全症モデルマウスを用いた創薬の標的探索
古武 弥一郎	広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 生体機能分子動態学研究室	助手	仏領グアデロープ島で多発するパーキンソニズムの原因物質解明
近藤 和弘	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 薬品合成化学分野	助教授	配座制御を設計基盤とした光学活性配位子の開発
近藤 昌夫	昭和薬科大学 薬剤学研究室	講師	Claudin modulatorを用いた新規薬物送達方法の開発
首藤 剛	熊本大学 大学院医学薬学研究部	助手	難治性呼吸器疾患における慢性炎症分子機構の解明
鈴木 孝禎	名古屋市立大学 大学院薬学研究科	助手	生命現象の解明及び医薬への応用を目指したアインザイム特異的ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の創製
高屋 明子	千葉大学大学院薬学研究院	助手	サルモネラMembrane vesicleを介した病原性発現制御の解明ーワクチン開発をめざした基礎研究
田熊 一徹	金沢大学 大学院自然科学研究科	助教授	Alzheimer病発症に関わるアミロイドβ蛋白の細胞内輸送経路の解明
谷村 進	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 生命薬科学専攻	助手	ERK-MAPキナーゼの細胞内局在制御機構と細胞運動
田淵 明子	富山大学薬学部	助教授	RPEL/MAL転写因子群の機能解析による遺伝子発現と神経機能調節の新規メカニズムの解明
永長 一茂	金沢大学 大学院自然科学研究科	助手	化学物質の精巢毒性を正しく評価するための新規な動物実験法の開発
西 毅	大阪大学産業科学研究所 医療基盤研究グループ	特任 助手	新しい創薬の標的としてのオーファン輸送体の輸送基質の同定と機能解析
西田 基宏	九州大学大学院薬学研究院 薬物中毒学分野	講師	線維化形成因子を指標とした心不全重症度の定量的評価法の確立

氏名	所属機関	職位	研究題目
西塚 誠	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 分子生物薬学分野	助手	脂肪細胞分化を制御するRGS2およびTCL/TC10 $\beta$ Lの機能解析
方 軍	(財) バイオダイナミクス研究所	研究員	新しいミセル素材SMAの開発とそのZnプロトポルフィリン包含ミセル[SMA-ZnPP]の抗癌活性
藤田 直也	東京大学 分子細胞生物学研究所	助教授	新規血小板凝集促進因子Aggrusの機能制御
藤室 雅弘	北海道大学大学院薬学研究科 生化学分野	助手	カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスの病原性発現機構
松尾 淳一	金沢大学 大学院自然科学研究科薬学系	助教授	穏和な酸化反応による新しい有機合成反応の開発
八代 聖基	就実大学薬学部	助手	熱帯熱マラリア原虫における膜輸送蛋白質複合体(SNARE複合体)の同定と機能解析
山口 佳宏	熊本大学 大学院医学薬学研究部 構造機能物理化学分野	助手	In silicoと熱測定を併用した基質アナログ型メタロー $\beta$ -ラクタマーゼ阻害剤探索
吉田 昌裕	徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 医薬資源科学講座	助教授	パラジウム触媒を用いた高度置換生理活性分子の立体選択的合成法の開発

### 2006年度 杏雨書屋研究奨励贈呈者

氏名	所属機関	職位	研究題目
島岡 眞	なし 名古屋大学博物館研究協力者		尾張本草学における虫譜の研究 —その特徴と継続性について—
土井康弘	法政大学通信教育部	講師	宇田川興斎の活動の解明とその科学史上での位置付けの検討
長野 仁	森ノ宮医療学園はりきゅうミュージアム	研究員	中世日本の鍼灸書・解剖書の整理・研究
町 泉寿郎	二松学舎大学 東アジア学術総合研究所	専任講師	杏雨書屋に所蔵する江戸～明治期医家の文書・書簡資料の解読と、それに基づく江戸～明治期医学史の研究
湯城 吉信	大阪府立工業高等専門学校	助教授	中井履軒『画觸(えくじり)』『さくら帖』の研究—その成書理由・背景を探る

### 2006年度 シンポジウム研究奨励贈呈者

氏名	所属機関	職位	研究題目
丹羽 一樹	産業技術総合研究所 セルエンジニアリング研究部門 セルダイナミクス研究グループ	研究員	Luciferase is the enzyme for oxidative bioluminescence reaction as well as for biosynthesis of the substrate D-luciferin
野尻 秀昭	東京大学生物生産工学研究センター 環境保全工学部門	助教授	Structural analysis of reaction cycle of Rieske non-heme iron oxygenase, carbazole 1, 9a-oxygenase: substrate-, oxygen-, and ferredoxin-binding manners with terminal oxygenase
三谷 芙美子	慶應義塾大学医学部 医化学教室	専任講師	Possible Participation of Ascorbate in Monoxygenase-dependent Steroidogenesis in Adrenal Zona Glomerulosa
吉岡 資郎	自然科学研究機構 分子科学研究所	助手	Oxygen Sensors in Bacterial Chemotaxis: Diversity of Active Site and Oxygen Sensing Mechanism

### 2006年度 高等学校理科教育振興奨励贈呈者

氏名	所属機関	職位	研究題目
藍 卓也	成城学園中学校高等学校 理科(生物)	教諭	「いきものいのち」を考える動物生理学実験実習の取り組み～古くに作られた観測機器を創造的に用いる工夫
芦沢 暁	山梨県立韮崎高等学校 生物	教諭	ヒトゲノムの遺伝子診断を取り入れた遺伝学習プログラムの開発と研究
一條 信明	北海道釧路湖陵高等学校 生物	教諭	外来種ウチダザリガニと在来種ニホンザリガニの競争関係の研究
伊藤 哲章	福島県立好間高等学校 理科(生物・化学)	教諭	高校生物における遺伝子組換え実験に関する研究—遺伝子組換え実験を正しく理解できるため実践的な教授方略の解明—
伊藤 政夫	名古屋市立向陽高等学校 生物	教諭	デジタル機器を用いた植物の運動についての教材の開発
井上 正之	広島学院中学・高等学校 理科(化学)	教諭	中等化学教育における有機化学実験のマイクロスケール化
岩本 哲人	神戸市立 六甲アイランド高等学校 生物	教諭	六甲アイランドで見つかった謎の巨大タンポポの正体について～地域で見つかった在来種のタンポポの同定とその教材化～
植木 玲一	北海道斜里高等学校 理科	教諭	地域の自然を総合的に学習させる学校設定科目「知床自然概論」の実践—博物館や大学の研究者と連携して
遠藤 直哉	福島県立安積高等学校 理科(生物)	教諭	県内の高校生を対象とした生命科学の講義・実習研修。サイエンスキャンプ安積(仮称)として実施

氏名	所属機関	職位	研究題目
垣内 貴司	石川県立鶴来高等学校 理科(化学・物理)	教諭	薬品管理システムの構築
川口 実	三重県立飯南高等学校 生物	教諭	ナメクジウオ(原索動物)の教材活用
北浦 隆生	大阪府立生野高等学校 理科(生物)	教諭	分子生物学をふまえたショウジョウバエの遺伝学総合実習
児玉 伊智郎	山口県立厚狭高等学校 理科(生物)	教諭	メダカとカダヤシの種間関係に及ぼす水質(窒素・リン)の影響
佐川 演司	福島県立白河第二高等学校 化学	教頭	自作センサーを使った吸光度の変化による反応速度の測定
下野 義人	大阪府立香里丘高等学校 理科(生物)	教諭	府立香里丘高等学校グラウンド横斜面林の樹木調査とその教材化およびマツタケ栽培の試み
菅原 賢一	宮城県宮城野高等学校 理科(生物)	教諭	生命科学実験プログラムの開発と実践
田中 義靖	東京都立駒場高等学校 理科(化学)	教諭	化学Ⅱの「生物と物質」における教材としての化学実験の開発とその普及
田村 一利	新潟県立新津高等学校 理科	教諭	エンドウマメ(Pisum sativum)の遺伝的変異の研究
寺田 光宏	静岡県立島田工業高等学校 理科	教諭	鈴木梅太郎博士の教材化ー化学Ⅱ、理科基礎、総合的な学習の時間に向けてー
苗川 博史	湘南工科大学附属高等学校 理科(生物)	教諭	身近な野菜を用いたDNA抽出実験の検討
永田 齊寿	福島県立勿来高等学校 理科	教諭	福島県いわき市の蝶類群集についての研究
中台 文夫	千葉県立柏高等学校 理科	教諭	学校現場の化学実験集
中村 信雄	函館白百合学園高等学校 理科(生物)	教諭	生命科学の基礎となるDNAの理解を目指した教材開発と授業実践ーDNAのビーズ分子モデル作成と電気泳動実験を取り入れてー
早川 雅晴	千葉県立船橋法典高等学校 理科	教諭	コアジサシを通じた生物学習と保護活動を学校教育の中で実践するためのガイドブック作製
平田 泰紀	大阪府立三島高等学校 理科(生物)	教諭	インフォームドコンセントのための高校生物モジュール教材の開発
深川 久	大阪府立豊中高等学校 数学	教諭	高等学校における「サイエンス・セミナー」の企画・運営に関する実践研究ー生物・化学領域を中心としてー
細野 春宏	埼玉県立熊谷西高等学校 理科	教諭	細胞性粘菌の教材化の研究
松本 浩司	愛媛県立長浜高等学校 理科	教諭	カクレマノミの増殖と放流の研究と教材化
山本 高之	帝京大学高等学校 理科(生物)	教諭	高校生物における心臓・神経・筋肉の実験教材開発と教育実践
萬木 貢	北海道旭川東高等学校 理科	教諭	簡易ゲル電気泳動装置を用いた実験教材の開発

### 2006年度 報彰基金研究会等の開催支援交付対象

《心臓疾患、高血圧、動脈硬化、脳血管障害、糖尿病に関する研究会等》

氏名	所属機関	研究会の名称
小泉 昭夫	京都大学大学院医学研究科 環境衛生学	第6回分子予防環境医学研究会
荒木 栄一	熊本大学大学院医学薬学研究部 代謝内科学分野	第15回西日本肥満研究会
上島 弘嗣	滋賀医科大学 社会医学講座福祉保健医学	第2回アジア・太平洋及び 第19回日本循環器病予防セミナー

## 2006年度 研究補助を行った留学研究者

(来日ベース)

氏 名 性 別、年 齢	所 属 職 位	研 究 機 関
<b>台 湾</b>		
蔡 慧珍 女性、36才	高雄医学大学附設医院 血液腫瘍内科主治医師	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター
蔡 家揚 男性、35才	台北医学大学附設医院 一般外科主治医師	順天堂大学大学院 肝・胆・膵外科学
吳 俊賢 男性、34才	阮綜合医院 泌尿器科 主治医師	信州大学医学部 泌尿器科学
李 盈瑩 女性、31才	台湾大学医学院附設医院 家庭医学科総医師	東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
甘 蓉瑜 女性、37才	高雄医学大学附設医院 胃腸・一般外科 主治医師	東京大学大学院医学系研究科 胃・食道外科
小 計	5名	
<b>タ イ</b>		
Chalerm Sak Sriworakun 男性、37才	Vajira病院 整形外科 医師	大阪厚生年金病院 スポーツ医学科
Sitthicha Siriaree 男性、35才	Chiang Mai大学医学部 産婦人科 Instructor	国立がんセンター中央病院 婦人科
Parichart Tingnapun 女性、32才	Prajomklao病院 眼科 医師	東京大学大学院医学系研究科 感覚・運動機能医学講座眼科学
Kanit Sananpanich 男性、38才	Chiang Mai大学医学部 整形外科 講師	東京大学大学院医学系研究科 形成外科学
Watcharin Yingsitsiri 女性、33才	Udonthani病院 血液内科医師	九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学講座
Chalacheewa Theerawat 男性、30才	Mahidol大学医学部Ramathibodi病院 麻酔科医師	広島市立広島市民病院 麻酔科・集中治療部
小 計	6名	
<b>フィリピン</b>		
Dante G. Ang 男性、38才	フィリピン大学病院 外科 Clinical Associate Professor	国立がんセンター中央病院 外科第二領域外来部
Mark C. Cellona 男性、32才	フィリピン大学病院 泌尿器科医師	国立がんセンター中央病院 第二領域外来部泌尿器科
Angel A. Cayetano Jr 男性、33才	Cagayan Valley医学中心 Medical Specialist II	弘前大学医学部 整形外科
小 計	3名	
<b>韓 国</b>		
Young-Joon Jo(趙英準) 男性、36才	Chungnam大学病院 眼科 Instructor	九州大学大学院医学研究院 眼科学
小 計	1名	
<b>中 国</b>		
李 文麗 女性、38才	第四軍医大学 予防医学系毒理学研究室 副教授	東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター
李 曉北 男性、35才	首都医科大学附属北京朝陽医院 泌尿外科腎移植中心 主治医師	東京女子医科大学腎臓病総合センター 泌尿器科
鄧 曉惠 女性、43才	山東大学齊魯医院 婦産科生殖中心 主任	IVFなんばクリニック
吳 俊超 男性、43才	四川大学華西医院 消化科 副主任 副教授	昭和大学横浜市北部病院 消化器センター
施 裕新 男性、43才	江蘇南通大学附属医院 映像科 副主任	三重大学医学部附属病院 画像診断科放射線治療科
李 曉亮 男性、39才	雲南省紅十字会医院 眼科/屈光中心主任	滋賀医科大学 眼科学
石 踐 男性、39才	陝西省人民医院 心臓外科 副主任	順天堂大学医学部 心臓血管外科
陸 衛軍 男性、41才	広西壮族自治区人民医院 心血管及び胸部外科 副主任	東京女子医科大学 心臓血管外科
荊 建紅 女性、42才	鄭州大学第一附属医院 婦産科 教授、主任医師	国立病院機構京都医療センター 産婦人科
劉 文玲 女性、45才	北京大学人民医院 心内科 副主任	京都大学大学院医学研究科 循環器内科学
李 金泉 男性、42才	蘇州大学附属第一医院 神経外科 副主任	藤田保健衛生大学 脳神経外科
小 計	11名	

氏 名 性 別、年 齢	所 属 職 位	研 究 機 関
----------------	------------	---------

インドネシア

Rosdiana Natzir 女性、50才	Hasanuddin大学医学部 生化学 講師	富山大学医学部 公衆衛生学
Muhammad Ghufron 男性、55才	Gadjah Mada大学医学部 組織学及び細胞生物学 医師	千葉大学大学院医学研究院 分化制御学
Gadis Meinar Sari 女性、40才	Airlangga大学医学部 生理学 講師	神戸大学大学院医学系研究科 ゲノム科学講座 微生物学研究分野
Budi Wiweko 男性、35才	インドネシア大学医学部 Immunoendocrinology 医師	兵庫医科大学医学部 産科婦人科学
Ivo Novita Sah Bandar 女性、30才	インドネシア大学医学部 内科 熱帯医学/感染症 医師	岩手医科大学医学部 細菌学講座
Handrianto Setiajaya 男性、43才	The Gatot Soebroto Central Army病院 脳神経外科 医師	名古屋第二赤十字病院 脳神経外科
小 計	6名	

ベトナム

Bui Nam Phong 男性、36才	19-8病院 集中治療部 医師	横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター外科学
Nguyen Thi Dieu Tho 女性、35才	ホーチミン市眼病院 Cornea Dept. 眼科医	東京歯科大学市川総合病院 眼科学
Pham Thi Bich Thuy 女性、34才	ホーチミン市眼病院 Refractive Dept. 医師	慶應義塾大学医学部 眼科学
Do Anh Tu 男性、35才	国立がん病院 Medical Oncology No.1 副主任	国立がんセンター中央病院 臨床検査部輸血管理室
Diep Huu Thang 男性、41才	ホーチミン市眼病院 Cornea Dept. 副主任	東京歯科大学市川総合病院 眼科学
小 計	5名	

そ の 他

無し		
小 計	0名	
合 計	37名	